

安芸高田市学校規模適正化委員会
答申書（素案）

平成 年 月

安芸高田市学校規模適正化委員会

目 次

はじめに	1
1 安芸高田市で目指すべき教育目標	2
2 安芸高田市の学校教育の現状と課題	2
(1) 安芸高田市の学校教育の現状	2
(2) 小・中学校児童生徒数の現状と推移予測	5
(3) 学校施設の状況	10
(4) 安芸高田市の学校教育における課題	13
3 安芸高田市として整備すべき学校規模適正化の方向性	14
(1) 学習面	14
(2) 社会面・生活面	14
(3) クラブ・部活動面	15
(4) 学校運営面	15
4 学校規模適正化に向けた留意点	17
(1) 学校の適正規模	17
(2) 安芸高田市において望まれる学校規模	18
5 学校の規模適正化に向けた検討課題	19

はじめに

次回以降、整理事項

安芸高田市学校規模適正化委員会

委員長 林 孝

1 安芸高田市で目指すべき教育目標

安芸高田市は、教育基本プランとして「新教育戦略 21～みらいにかがやく安芸高田の教育～」を策定し、次の3つの教育目標をかかげている。

- ① 知識社会化・国際化・情報化する 21 世紀の社会的経済的要請に応える、主体的で自立した人材の形成
- ② 確かな学力を備えた、健康で心豊かな人材の形成
- ③ 郷土を愛し、地域の自然や文化を深く理解し、大切にす人材の育成

こうした教育目標に基づいて、学校教育では目指す学校像を「地域に開かれた特色ある学校」、目指す子ども像を「夢と志を持った活力ある子ども」と定めている。その実現には学校・家庭・地域社会の相互連携とともに学校間の横の連携、幼小中高といった縦の学校間連携により、教育関係者が一体となった「協育」の推進を図っている。

2 安芸高田市の学校教育の現状と課題

(1) 安芸高田市の学校教育の現状

安芸高田市における小学校数は平成14年度旧高田郡までは17校であり、旧美土里町における、4小学校の統廃合及び美土里小学校の新規開校により平成15年度には14校となり、高田郡6町の合併により安芸高田市が誕生した平成16年には、旧吉田町における1小学校の統廃合により、13校となり現在に至っている。中学校数は、旧町ごとに1校、計6校である。

小学校数			中学校数		
平成 14(2002)年	平成 15(2003)年	平成 16(2004)年	平成 21(2009)年	平成 21(2009)年	
吉田小	吉田小	→吉田小 (統廃合)	吉田小	吉田中	
丹比西小	丹比西小		可愛小		
可愛小	可愛小	可愛小	可愛小	八千代中	
郷野小	郷野小	郷野小	郷野小		
刈田小	刈田小	刈田小	刈田小	美土里中	
根野小	根野小	根野小	根野小		
横田小	→美土里小 (統廃合・新規)	美土里小	美土里小	美土里中	
本郷小					
北小					
生桑小					
川根小	川根小	川根小	川根小	高宮中	
来原小	来原小	来原小	来原小		
船佐小	船佐小	船佐小	船佐小	甲田中	
甲立小	甲立小	甲立小	甲立小		
小田小	小田小	小田小	小田小	向原中	
小田東小	小田東小	小田東小	小田東小		
向原小	向原小	向原小	向原小	計6校	
計 17 校	計 14 校	計 13 校	計 13 校		

こうした学校数の変遷を受け、安芸高田市では学校教育における学力向上を支援するため、平成 20 年度より試行的に市内 3 小学校の 3・4 年生を対象に各 1 名の「学習補助員」を配置し、平成 21 年度からは全ての小学校に拡大配置を行っている。これにより、きめ細かな指導支援や補充的な指導、家庭における学習習慣の基盤づくりを進められている。また、新学習指導要領に基づく、英語力の向上と国際理解を深めるため、民間から 5 名の A L T (外国語指導助手) を保育所、幼稚園、小・中学校及び市民英会話教室に派遣し、国際化時代に対応した教育の充実強化に努めている。

これらの施策の実施により、平成 21 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査や平成 21 年度全国学力学習状況調査結果をみると、基礎的な学力定着がみられる。

平成 21 年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査

小学校 5 年	国語	算数	中学校 2 年	国語	数学	英語
広島県	75.0	79.8	広島県	75.0	69.7	65.2
安芸高田市	78.8	82.9	安芸高田市	80.4	74.9	71.9

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査

小学校 6 年	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	中学校 3 年	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全国	69.9	50.5	78.7	54.8	全国	77.0	74.5	62.7	56.9
広島県	72.9	53.8	81.3	56.6	広島県	77.6	74.8	62.9	56.2
安芸高田市	74.4	51.8	79.5	52.6	安芸高田市	78.8	77.8	62.7	56.6

また、本市においては地域に開かれた特色のある学校づくりを目指して、地域人材の学習への活用、地域の自然や郷土芸能を取り入れた学習等、地域に根ざした特色のある教育活動を推進されている。こうした活動の推進によって、年齢の異なる子ども同士、世代を越えた地域住民との関わりを持ち、社会性を向上させると同時に、地域とのふれあいによる地域愛、地域の誇りを育むことにつながっている。

平成 20 年 7 月に政府が策定した教育振興基本計画では、今後 10 年間を通じて、目指すべき教育の姿が示されており、その中で「義務教育終了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる。」ことが謳われており、社会全体による子育ての必要性が述べられている。

また、学校の使命は全ての子どもたちに社会で自立して生きていく基礎を養うことであり、教育環境としては、人間関係から多様な考え方に出会い、お互いに切磋琢磨していく中で、協調性、社会性、規律性などを養い、人格形成が行っていきける環境が求められ、この環境を整備することが喫緊の最重要課題とされている。

学校での人間関係能力の向上にあわせて、教育の出発点である家庭や、子どもたちの安全で良好な成長を見守る地域が、それぞれ役割分担を行い、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育む仕組みづくりを行い、将来の明るい展望を描いていくことが期待されている。

こうした中、本市の各小・中学校では、次表のような平成 21 年度の教育目標をかかげており、「協育」の推進が図られている状況にある。

① 市立小学校の教育目標

学校名	教育目標
吉田小	志をもち 夢に向かって歩む 子どもの育成
可愛小	『夢に向かってはげむ子』 －「のびる つながる ひろがる」可愛小教育の創造－
郷野小	夢に向かって 輝く子ども <気づき 考え 行動する>
刈田小	Challenge チャレンジ Cheer 元気いっぱい Clean ぴかぴか
根野小	「確かな学力を身につけた たくましい子どもの育成」
美土里小	ふるさとを愛し 心豊かで たくましく生きる 児童の育成
川根小	ひとりでもできる、みんなともできる「か・わ・ね」の子どもの育成
来原小	夢と志をもった元気な来原っ子の育成 ー自己肯定感の向上ー
船佐小	笑顔いっぱい 輝け 船佐っ子 Shine Smile Step
甲立小	夢を育み 心豊かに 輝いて生きる児童の育成
小田小	未来に生きる知・徳・体・心の力を持った子どもの育成
小田東小	『自ら学び、心豊かにたくましく生きるひがしっ子』
向原小	確かに 豊かに 健やかに

② 市立中学校の教育目標

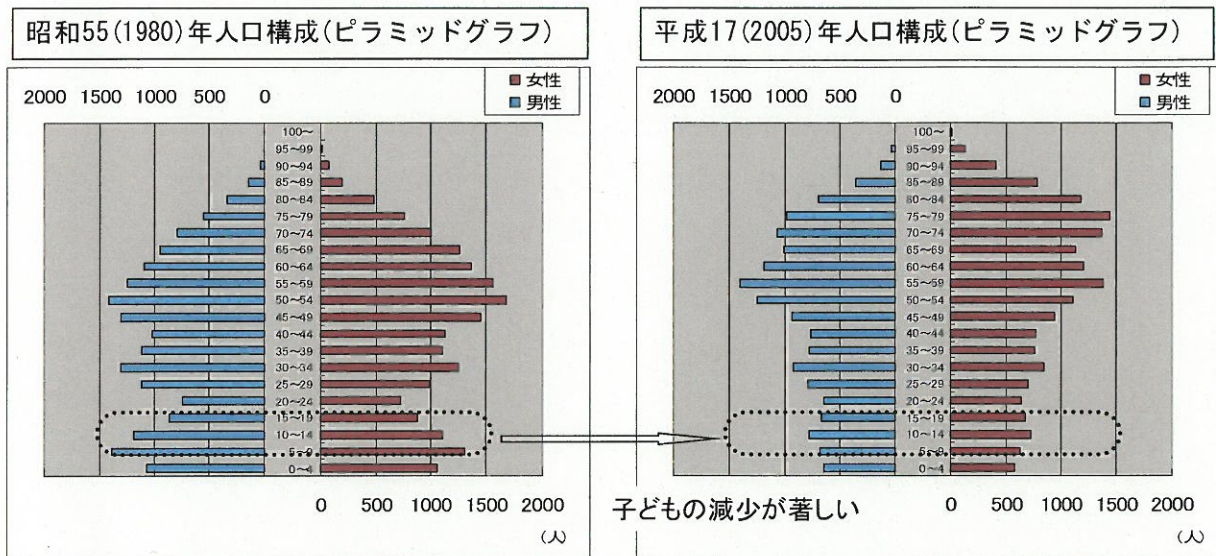
学校名	教育目標
吉田中	確かな学力と豊かな心を持ち、心身ともにたくましい生徒の育成
八千代中	「自ら学び、自信を持って物事に挑戦する生徒の育成」
美土里中	「ふるさとを愛し、学び続ける生徒の育成」
高宮中	自らの生き方に誇りを持ち、人間性豊かで、たくましく生きる生徒を育成する
甲田中	ふるさとを愛し、新しい時代を切り拓き、たくましく生きる生徒の育成
向原中	自ら学ぶ意欲をもち、たくましく生きぬく生徒の育成

(2) 小・中学校児童生徒数の現状と推移予測

ア 安芸高田市人口の現況と推移

安芸高田市における昭和55年から平成17年までの25年間の人口推移をみると、総人口は、昭和55年の約37,000人から、平成17年には約33,100人に減少している（減少率10.5%）。人口の減少に伴い小学校児童数は、昭和55年に3,020人であったものが平成17年には1,695人に減少しており（減少率43.9%）、中学校生徒数は、同じく1,291人が924人に減少（減少率28.4%）している。

安芸高田市の人口減少率は、特に子どもたちが高く、少子化による子どもの減少が急激に進んでいる。



イ 児童生徒数の現状と将来予測

平成21年5月1日現在の安芸高田市の各小・中学校の児童生徒数、学級数についてみると、小学校では吉田小学校が391人と最も多く、13学級が編成されている。また中学校では吉田中学校が305人で最も多く、9学級が編成されている。

このように吉田地区の学校が相対的に市内では規模が大きく、その他の地区の小・中学校は全般的に1学年1学級で編成されている。

○小学校の位置、児童数、普通学級数

21年度児童数及び普通学級数（平成21年5月1日現在）



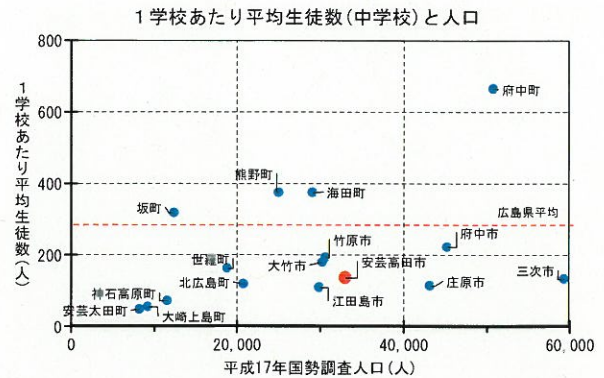
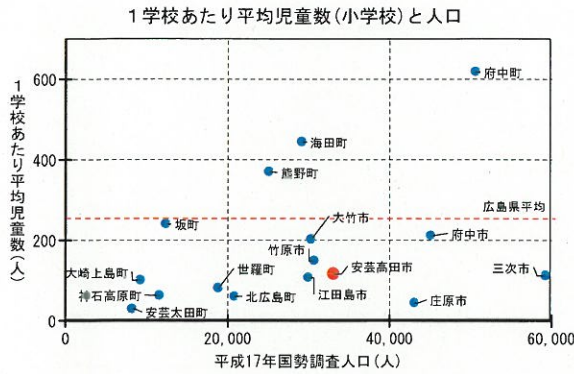
○中学校の位置、生徒数、普通学級数

21年度生徒数及び普通学級数（平成21年5月1日現在）



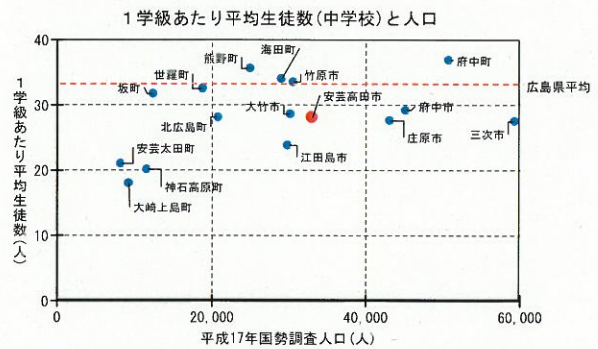
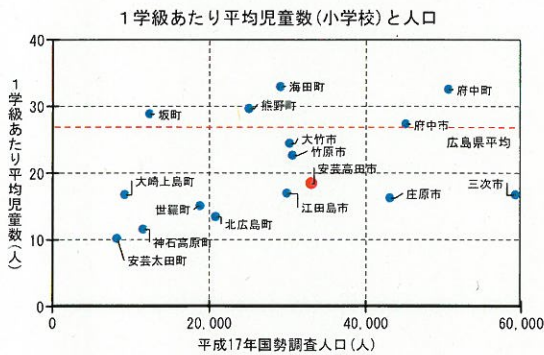
安芸高田市の小学校の平均児童数は1学校あたり116人で、広島県平均の274人/学校に比べるとかなり少ない状況であるが、人口規模が類似する江田島市、竹原市と比較すると概ね同じである。

また、中学校の平均生徒数は1校あたり136人で、小学校と同様、広島県平均284人/学校に比べるとかなり少ない状況であるが、人口規模が類似する江田島市と比較すると概ね同じである。

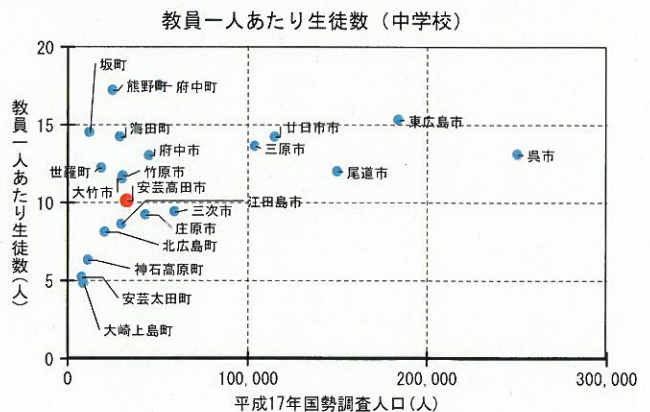
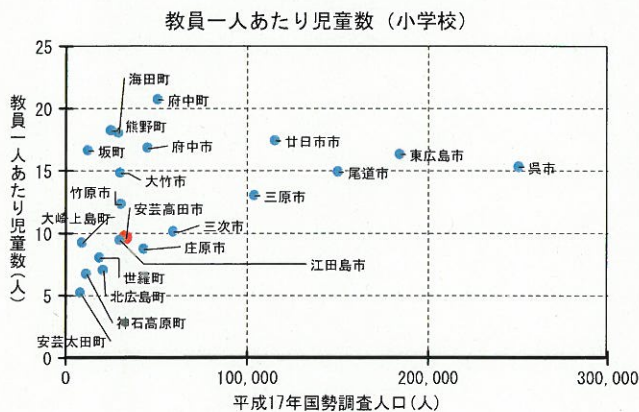


安芸高田市の小学校における1学級あたりの児童数は、平均18.4人/学級で、広島県平均27.3人/学級に比べ少なくなっている。三次市、庄原市、江田島市などと概ね同じであるが、都市規模が類似する大竹市、竹原市に比べると、やや少なくなっている。

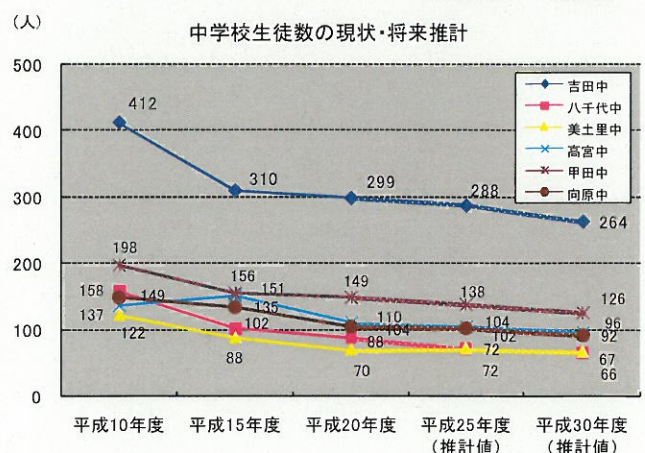
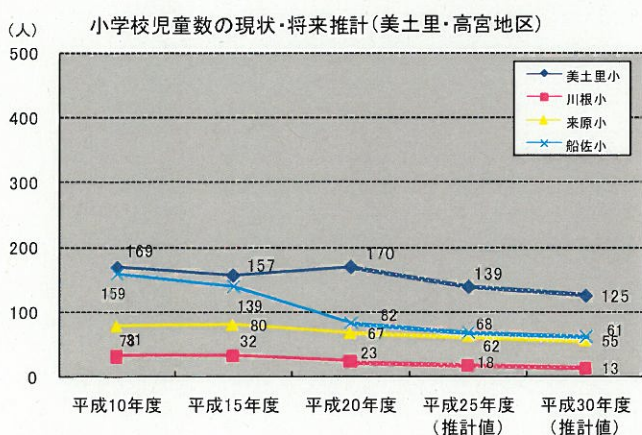
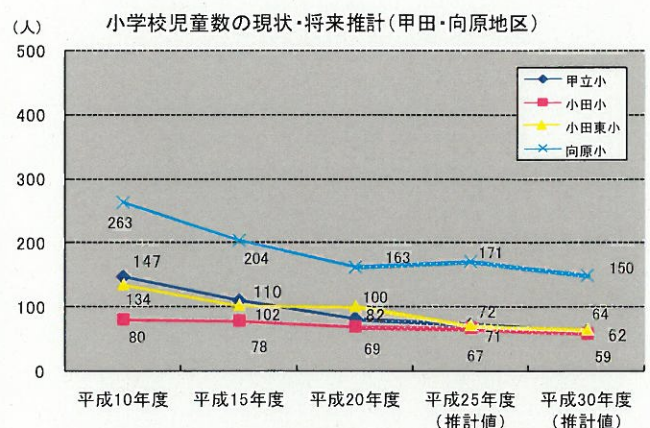
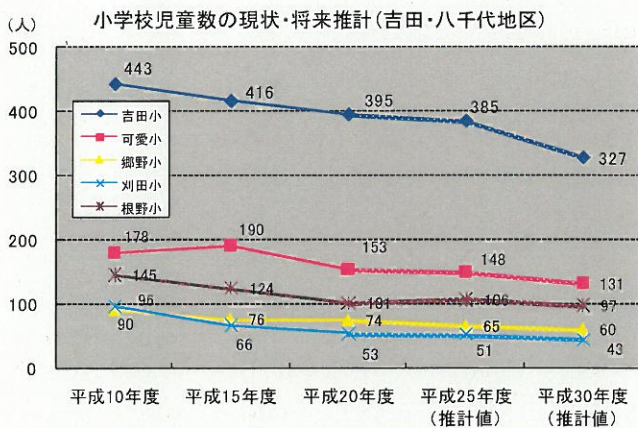
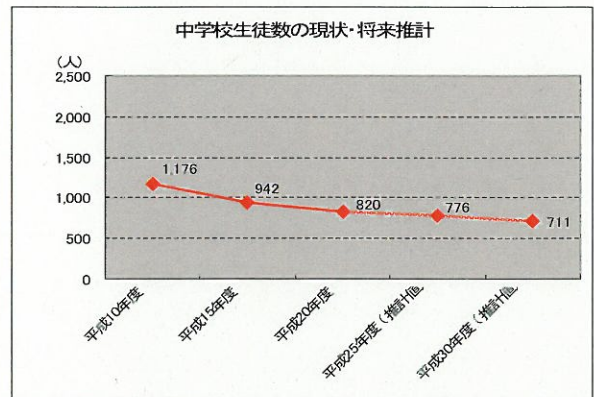
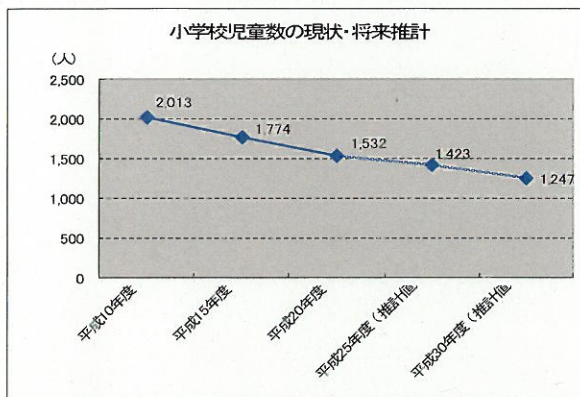
また、中学校では1学級あたりの生徒数は平均28.1人/学級で、広島県平均32.4人/学級に比べ少ない状況ではあるが、都市規模が類似する大竹市と概ね同じである。



また、教員一人あたりの児童生徒数についてみると、小学校では平均9.6人、中学校では平均9.9人で、小学校では三次市、庄原市、江田島市などと概ね同じであり、都市規模が類似する大竹市、竹原市に比べると、少なくなっている。中学校では三次市、庄原市などと概ね同じであるが、都市規模が類似する大竹市、竹原市に比べると、やや少なくなっている。

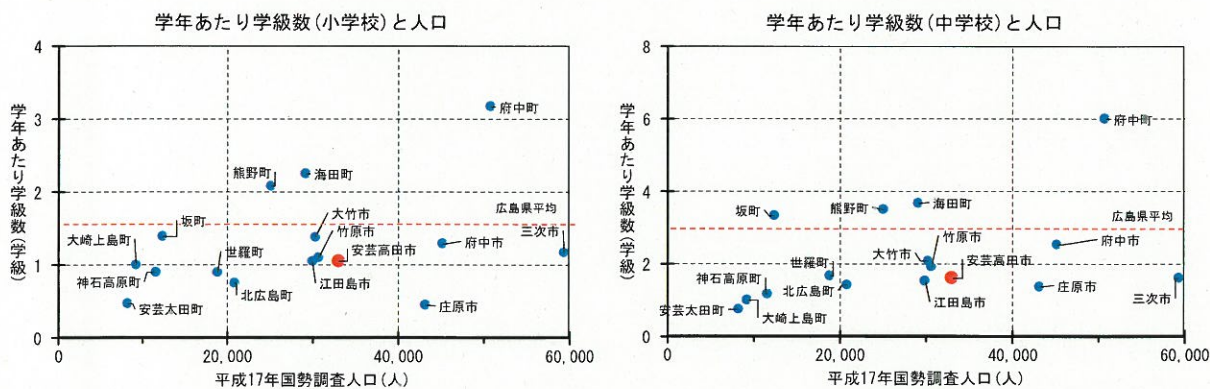


平成 20 年度の児童生徒数に基づき、平成 30 年度の児童生徒数を推計したところ、小学校児童数は 平成 20 年度 1,532 人、平成 30 年度 1,247 人となり、285 人減少することが予想される。また、中学校生徒数は 平成 20 年度 820 人、平成 30 年度 711 人となり、109 人の減少が予想される。このように平成 30 年度の児童数は平成 20 年度の約 8 割となり、同様に、平成 30 年度の生徒数は平成 20 年度の約 8.5 割になることが想定される。このような傾向から、将来的には学校規模の縮小は避けられないものと考えられる。

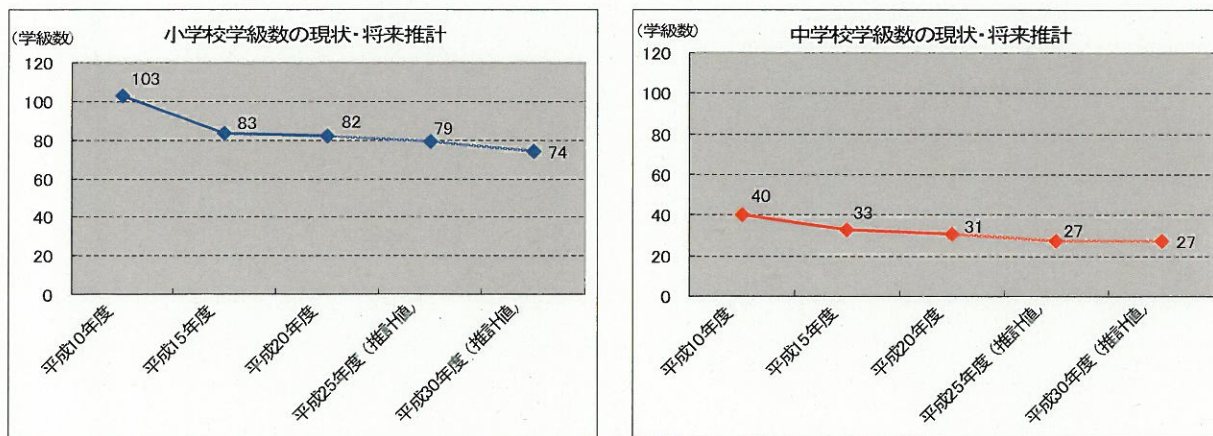


ウ 学校規模の現状と将来予測

安芸高田市の小学校における学年あたり学級数は1.05ですが、広島県平均1.68学級/学年に比べ低い状況にある。これは江田島市、竹原市と概ね同じですが、都市規模が類似する大竹市に比べると、やや低くなっている。また、中学校における学年あたりの学級数は1.61で、広島県平均2.92に比べ低いものの、都市規模が類似する江田島市と概ね同じである。



小学校では、旧美土里町の小学校統廃合に伴い、平成10～15年度の間学級数が大きく減少しているが、その後の変化はあまりみられない。平成30年度の学校別学級数を推計してみると、全学年において複数学級（1学年2学級以上）を編制できるのは、小学校では、吉田小学校のみであり、中学校では吉田中学校、甲田中学校の2校である。一方、平成30年には、郷野小学校、刈田小学校、川根小学校、来原小学校、船佐小学校、甲立小学校、小田小学校、小田東小学校の8校が複式学級になることが予想される。



(3) 学校施設の状況

安芸高田市の小学校校舎についてみると、建築年では美土里小学校が平成15年建築で、最も新しく、可愛小学校、来原小学校も平成に建築された施設である。最も古い施設は、郷野小学校の木造校舎で、昭和10年建築である。これに次いで古いのは吉田小学校の昭和37年～39年である。ただし、吉田小学校では、平成14年に校舎の大規模改修が行われている。その他の小学校については、昭和50年代に建てられた校舎が多い。

建物構造としては、郷野小学校を除き、全ての学校が鉄筋コンクリート造で、階数は、3階建が吉田小学校など7校、2階建が可愛小学校など6校となっている。

中学校校舎についてみると、建築年から最も新しい施設は高宮中学校で、昭和63年建築となっている。その他の中学校校舎は昭和40年代、50年代に建てられた施設が多い。

校舎の構造は全て鉄筋コンクリート造で、特別教室棟、クラブハウスなど一部に鉄骨その他造の建物が見られる。

学校施設の概要(小学校)

学校名	校舎建築年	階数(階)	面積(m ²)	構造	備考	屋内体育館等建築年	面積(m ²)	構造	その他
吉田小	1962～'64 (s37～39)	3	2,666	鉄筋コンクリート造	大規模改修 2002(h14) 大規模改修 2002(h15)	1984(s59)	1,136	鉄筋コンクリート造	運動場用地 11,336m ²
	西側別棟校舎 1980(s55)	3	566	鉄筋コンクリート造					
可愛小	1994(h6)～ 1995(h7)	2階一部 1階	2,318	鉄筋コンクリート造		1979(s54)	678	鉄骨その他造	運動場用地8,113 m ²
郷野小	1935(s10)	2階一部 1階	1,733	木造		1985(s60)	722	鉄筋コンクリート造	運動場用地7,388 m ²
	1968(s43)	1階	99	鉄骨その他造(音楽室)					
刈田小	1983(s58)	3	2,190	鉄筋コンクリート造		屋内体育館 1981(s56)	694	鉄骨その他造	運動場用地6,956 m ²
根野小	1988(s63)	2	2,144	鉄筋コンクリート造		体育館 1988(s63)	756	鉄骨その他造	運動場用地8,427 m ²
美土里小	2003(h15)	2	3,065	鉄筋コンクリート造		校舎と一体的に整備	—	—	体育倉庫 2003(h15) 運動場用地3,206 m ²
川根小	1985(s60)	2	1,258	鉄筋コンクリート造		1978(s53)	560	鉄骨その他造	教員住宅 1977(s52)83m ² 運動場用地3,510 m ²
来原小	1993(h5)	3	1,943	鉄筋コンクリート造		1979(s54)	612	鉄骨その他造	運動場用地5,312 m ²
		1	150	鉄筋コンクリート造(クラブハウス)					
船佐小	1983(s58)	2	1,948	鉄筋コンクリート造		1983(s58)	701	鉄骨その他造	運動場用地 12,946m ²
		1	148	鉄骨その他造(屋内運動場クラブハウス)					
甲立小	1984(s59)	3	2,589	鉄筋コンクリート造		体育館 1977(s52)	727	鉄骨その他造	運動場用地4,632 m ² 、借用5,282m ²
小田小	1980(s55)	3	2,461	鉄筋コンクリート造		1979(s54)	850	鉄骨その他造	運動場用地6,125 m ²
小田東小	1988(s53)及び 1986(s61)	3	2,463	鉄筋コンクリート造		1980(s55)	727	鉄骨その他造	運動場用地5,732 m ² 、借用826m ²
向原小	1977(s52)	3	3,172	鉄筋コンクリート造		1974(s49)	730	鉄筋コンクリート造	運動場用地4,177 m ² 、借用2,595m ²

資料:安芸高田市資料による